

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	過炭酸ナトリウム
製品コード	F2-16
整理番号	F2-16-2
供給者の会社名称	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	環境・品質保証部
電話番号	06-6910-7305
FAX番号	06-6910-7300
緊急連絡電話番号	06-6910-7305
URL	<a href="http://www.hpc-j.co.jp/">http://www.hpc-j.co.jp/</a>

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	酸化性固体 区分3
健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(吸入:粉じん) 区分4 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分3 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用 気道刺激性)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分2 水生環境有害性(長期間) 区分外 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

#### GHSラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語 危険有害性情報

警告  
H272 火災助長のおそれ:酸化性物質  
H302+H332 飲み込んだり、吸入すると有害  
H316 軽度の皮膚刺激  
H318 重篤な眼の損傷  
H336 眠気又はめまいのおそれ  
H335 呼吸器への刺激のおそれ  
H401 水生生物に毒性

##### 注意書き 安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)  
衣類及び他の可燃物から遠ざけること。(P220)  
可燃物と混合を回避するために予防策を取ること。(P221)  
粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)  
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

応急措置	<p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)</p> <p>環境への放出を避けること。(P273)</p> <p>保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)</p> <p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>直ちに医師に連絡すること。(P310)</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)</p> <p>口をすすぐこと。(P330)</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)</p> <p>火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)</p>
保管	<p>容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)</p> <p>施錠して保管すること。(P405)</p>
廃棄	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	炭酸ナトリウム・過酸化水素化物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
炭酸ナトリウム・過酸化水素化物	71～79%	$\text{Na}_2\text{CO}_3 \cdot 1.5\text{H}_2\text{O}_2$	1-143, 1-164, 1-419		15630-89-4
炭酸ナトリウム	19～27%	$\text{Na}_2\text{CO}_3$	1-164		497-19-8

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

### 4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を水で十分洗う。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>直ちに多量の水を飲ませる。</p> <p>口をすすぐこと。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p>

### 5. 火災時の措置

消火剤	<p>この製品自体は、燃焼しない。</p> <p>周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。</p>
使ってはならない消火剤	<p>高圧棒状放水</p>
特有の危険有害性	<p>それ自身は燃えないが、支燃性である。</p>
特有の消火方法	<p>周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。</p> <p>移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。</p> <p>着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。</p>
消火を行う者の保護	<p>消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。</p>

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外は近づけない。  
立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

### 環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。  
本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物は、粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。  
長時間または反復の暴露を避ける。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分に作る。

#### 安全取扱注意事項

作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分に作る。  
取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の設定のある場所で取り扱う。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。  
粉じん、ヒュームの吸入を避けること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
周辺での高温物の使用を禁止する。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
飲み込みを避けること。  
環境への放出を避けること。  
眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

### 保管

#### 安全な保管条件

施錠して保管すること。  
直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

#### 安全な容器包装材料

気密容器

## 8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
炭酸ナトリウム・過酸化水素化物	設定されていない		
炭酸ナトリウム	設定されていない		

### 設備対策

取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

防塵マスク、自給式呼吸器(火災時)。

#### 手の保護具

保護手袋

#### 眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

#### 皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 外観

物理的状態	固体
形状	粒状
色	白色
臭い	情報なし
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	10.0~11.0 (3%水溶液として)
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度	情報なし
燃焼又は爆発範囲	データなし
比重(密度)	0.71~0.79g/cm <sup>3</sup>
溶解度	水:約15.2g/100ml(20℃)
動粘性率	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	<p>単独では通常の取り扱い条件で安定であるが、熱や分解を促進する物質との接触によって分解する。</p> <p>分解時は酸素ガス、水(または水蒸気)及び熱を発生する。熱がこもると分解が促進され、密閉容器では破裂することがある。</p> <p>水溶液は弱塩基である。</p>
危険有害反応可能性	<p>水に溶解すると、炭酸ナトリウムと過酸化水素に分解する。水溶液は弱アルカリ性を示し、放置しておくとも過酸化水素は徐々に分解して水と酸素ガスになる。</p>
避けるべき条件	日光、加熱、水、湿気。金属、金属塩、有機物、酸、還元剤との接触。
混触危険物質	金属、金属塩、有機物、酸、還元剤。
危険有害な分解生成物	過酸化水素、酸素。

## 11. 有害性情報

急性毒性:経口	<p>マウス LD<sub>50</sub>:1,900~3,000mg/kg</p> <p>吸入又は経口摂取すると有害により区分4とした。</p>
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	<p>ニュージーランドホワイトラビットに対して0.5時間、24時間、48時間、72時間、96時間、7日間及び14日間の適用で、最も高い紅斑と浮腫のスコア値が2であったと記載されている過炭酸ナトリウムに関する情報に基づき区分3とした。</p>
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	<p>眼に入った場合には痛みを伴い、眼を損傷する恐れがあることから、区分2Bとした。</p>
皮膚感作性	<p>24匹のモルモットに対して皮膚感作性がなかったとの記載(Glaza 1990e EPAテスト)がある。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>麻酔作用が区分3である炭酸ナトリウムを約23%含むため、区分3(麻酔作用)とした。気道刺激性が区分3である炭酸ナトリウムを約23%含むため、区分3(気道刺激性)とした。</p>

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	<p>甲殻類(ミジンコ)の48時間EC<sub>50</sub>=4.9mg/L(shurtleff 1989b EPAテスト)から、区分2とした。</p>
水生環境有害性(長期間)	<p>水中で速やかに分解するため、区分外とした。</p>
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<p>都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。</p>
-------	--

## 汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国際規制

## 海上規制情報

IMOの規定に従う。

UN No.

3378

Proper Shipping Name

SODIUM CARBONATE PEROXYHYDRATE

Class

5.1

Packing Group

III

Marine Pollutant

Not applicable

Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code

Not applicable

## 航空規制情報

ICAO/IATAの規定に従う。

UN No.

3378

Proper Shipping Name

SODIUM CARBONATE PEROXYHYDRATE

Class

5.1

Packing Group

III

## 国内規制

## 陸上規制情報

該当しない

## 海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号

3378

品名

過炭酸ナトリウム

国連分類

5.1

容器等級

III

海洋汚染物質

非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

## 航空規制情報

航空法の規定に従う。

国連番号

3378

品名

過炭酸ナトリウム

国連分類

5.1

等級

III

## 特別の安全対策

運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 緊急時応急措置指針番号

140

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・酸化性の物(施行令別表第1第3号)

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16の項

船舶安全法

酸化性物質類・酸化性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)

航空法

酸化性物質類・酸化性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法

危険物・酸化性物質(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二)

水道法

有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101)

## 16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)

16615の化学商品(化学工業日報社)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構

その他

The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH

当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。

現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。